



魅惑のモバイル端末たち

前書き

魅惑のモバイル端末たち

緑 一

このお話は若くしてモバイルなんてものにはまってしまった私の、無駄遣いを記憶から引っ張り出してまとめたお話です。

全ての同じような、無駄遣いをしている、モバイル機器(≠UMPC)好きの方々や、Z80をハンドアセンブルしたような、ベーマガ読者だったような、そんな人たちにこのお話を捧げます。

また、細かいところや、自分がいたユーザグループ、当時有名だったサイト等のお話も書いていたのですが、取材活動とか、許可を頂いたりするのがホネで、少し端折っています。特にPalm系。

その辺は、「あんなのあったなあ」と言う思い出を、思い出していただければと思います。

PC-1211 ~全ての始まり

SHARP PC-1211 ~全ての始まり

当時の私はまだ小学生か中学生だったと思う。

ある日私は親から、SHARPのポケットコンピュータ、PC-1211を貰った。

ついでのように、SHARP謹製のBASICルーチン集と共に。

これが衝撃の出会いだった。

液晶は1行で、20文字程度しかなく、ルーチン自体も1400ステップ程度しか入力できない。

こんなスペックのポケコンだったけど、当時の私には万能ツールに思えた。

ルーチン集には色々なルーチンが入っていた。

物理・工学的な計算ルーチンが多く、当時の自分にはよくわからないことだらけだった。

ただ、中にはゲーム的なものも少し含まれていて、そこから私はアルゴリズムなどを少しずつ学んでいくこととなる。

月面軟着陸ゲーム。

この言葉を聞いて、懐かしいと思った方も沢山いると思う。

ゲームと名がつくものの、単純に「燃料の噴射量を決める」→「宇宙船が少し下りてきて、現在の高度と加速度、燃料の残量が表示される」を繰り返し、燃料が尽きる前に月面に軟着陸するという単純なものである。

グラフィックなんて存在しない。

これが、ゲームとしても面白い上に、理屈がわかるとさらに面白くなる。

要は、重力加速度と燃料による加速度の合成から自身の高度を計算しているのである。

当時のゲームは本当にそういうゲームが多かったと思う。

ゴルフゲームも同じ。スイングの強さを入力すると、玉が進み、カップまでの距離が表示される。

ゲームとはいつつ、中身は計算そのもの。

私はこんな感じで、プログラミングにどんどんはまっていった。

Sharp PC-E550 ～二台目で一番お世話になったポケコン

Sharp PC-E550 ～二台目で一番お世話になったポケコン

お年玉で購入した、ポケットコンピュータ。

少し前から貯めていたので、中古のFM-TOWNSも買えたのだが、なぜかこっちを買った。

純粋に安かったのもある。ワゴンだったし。

このPC-E550という機種が、名機種だった。

4行表示可能、グラフィック表示可、なぜか私のPC-E550では、化学式なんかも見れた。

BASIC自体も大分進んでいて、更に色々なことが、簡単に出来た。

当時、マイコンBASICマガジンという雑誌が刊行されていて、毎回図書館に行っては、PC-E550に入力して帰った覚えがある。

マイコンBASICマガジンは投稿型のBASICなプログラムの雑誌(それだけではなかったが)で、MSXやN88BASIC上で動くゲームのソースコードが載っていたり、そのルーチンに対するワンポイントアドバイスがあったりととても充実した雑誌だった。ちなみに投稿して掲載されると一万円ぐらいもらえたはず。

これに、馬鹿みたいにはまった。

他機種のゲームを、PC-E550に移植したり、発展させたり。

この機種では、簡単に乱数が発生させられたので、「イスカンダルの豆腐屋ゲーム」なんかを移植した覚えがある。

また、グラフィックが凄かった。GPRINT命令で、16進で書いた文字列を画像として出力できたのだ。

当時、パソコン界では、Windowsとやらが出現していた。もちろん、3.0とかそんなのだ。

当然ほしくなる。でも買えない。という事でグラフィカルなシェルのまがい物も作った。といっても、CHAIN命令で別のルーチンを呼び出すだけのものだが。

その後、このPC-E550は私の酷使に耐えられず、壊れてしまう。液晶が完全に映らなくなってしまった。

シャーペンの芯を外部ポートに差し込んで、通信なんかさせてたのも原因だと思う。

これ以来、しばらくノートパソコンで、Cなんかを勉強したりしていた。

このノートパソコンも、ラップトップとか言うジャンルのもので、年代物のTOSHIBA J3100SLなんて変態マシンにLSI-C86試食版という組み合わせだったけど。

DOSモバ～初めてのモバイルっぽいもの。

DOSモバ～初めてのモバイルっぽいもの。

その後しばらくノートパソコンを触っていたのだが、ある日、雑誌で、コードネームPegasusなんてものが開発中であると知る。

そう。後のWindowsCE。カシオのCassiopeaだった。

凄く欲しくなったのだが、買えるわけも無い。

ちよくちよく、ソフマップの中古コーナーで欲しくなる自分を諷めていた。

しばらくたって、そこで衝撃的なものを自分は発見することになる。

モバイルギアなんていう物だ。もちろん、WindowsCE……ではなかった。

MS-DOSの上に独自のシェルが載っているという変な機械。

なぜか惹かれて買ってしまったのだった。

MC-K。（写真は後年買いなおしたMobileGear for DoCoMoである）

一番初期型である。

スペックは640x240pxのモノクロ4階調液晶、大き目のサイズのキーボード、PCMCIAカードスロットもある。

乾電池駆動で、結構な時間使用が可能。起動も終了もボタン一つで、同じ状態に戻る。

モデムつき（写真のMobileGear for DoCoMoにはついていない）で、Niftyはおろか草の根ネットにも繋ぐことが出来る。

表計算、ワープロなどが標準で入っているし、必要があればDOSに降りることも出来る。

降りればATOKも使えるし、VZエディタなんてものまで使える。

私自身はあまりDOSに降りず、ワープロ専用機の使用感があるこの端末で、私は色々な文章を書きまくった。

後年になると、LaTeXの原稿まで書いていた。TBC(Tokiwa Basic Compiler)で、小物プログラムを書いたりもした。



使い続けているコンパクトフラッシュ。64MBというところに時代を感じる。

これが、一番自分に合ったキーボード形の端末だったと自分で思う。

後に、紛失してしまったのだが、欲しくて欲しくてたまらなくて、やっと見つけたMobileGear for DoCoMoを買いなおした。

未だに長文を外で書くときには現役である。今ならポメラをみんな買うのかもしれないけど。

Palm系 ～一番便利なPDA

Palm系 ～一番便利なPDA

この後、私は、手帳型デバイスに憧れる。

だが、父のZaurusは使いにくかった。悪筆のために、紙に書くより時間がかかるのだ。

これなら、モバイルギアを使う。

そんな風に思っている矢先、Palmなんてものが目に入った。

設計思想が独特なPalmを私はすぐに好きになった。

とりわけ、「コンピュータが馬鹿ならば、自分があわせてやれば良いじゃない」という発想の、Graffitiが自分に合っていたと思う。

Graffitiとは、アルファベットを一部分だけ見たときに、dと cl って見分けつく？ つかないよね。じゃあ書き分けちゃえ、という発想の下に作られた、一筆書きの入力方法だ。

Aを^と書いたり、bをβと書いたりする。数字とアルファベットはそれぞれ描くエリアが違って、0と0の見分けがつくようになっている。

これが案外早く書けた。

忘れたら、入力エリアからぐーっと画面中央までペンでなぞれば、凡例が出てくる。

また、標準アプリの質が非常によかったのもポイントだった。

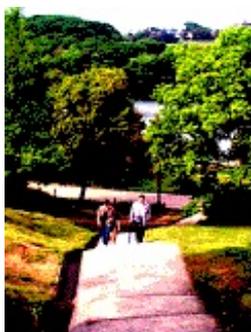
スケジュールやアドレス帳はシステム手帳のような感じで、見やすかったし、入力も楽。

といっても、外で入力することはあまりなく、自宅のデスクトップで専用のアプリケーションに入力したものを、送り込んだり、日程の修正をしたりする程度。

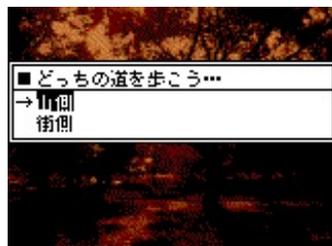
データはクレードルに置いてボタンを押すだけで全部Sync(転送)された。

そのほかにも、gccで自作アプリが作れた。

ライトな感じで、自分自身何作か公開したこともある。



多くの公園はからりと賑わっていた。空の下



せている。ふと見ると、林道の分岐点がすぐ目の前にあった。

知る人ぞ知る HPNV。

画像はすべて壊れるか、実家で眠るかしているの、無かったり。

でもとりあえず、今までつけた機種一覧を書いてみようと思います。

【IBM WorkPad 31J】

最初に買ったPalm。

スペックは忘れたが、超貧弱だったと思う。

しかし、実用には十二分だった。

そしてとにかく頑丈だった。父に進呈したので、物持ちのいい父のことだからまだ実家にあると思う

。

ちなみに、PHSモジュールが内蔵されているらしかったが、使ったことは無い。

乾電池で駆動するので、電池交換がスリル満点だった。

【Handspring Visor EDGE】

二台目Palm。シルバーのステンレス製で非常に格好がよかった。

厚さが超薄い。画面も白黒4階調だったと記憶している。

液晶は反転表示されているが、これはPalmWare(Palm用アプリケーション)で解決。

たぶん、今iPhoneを持っていなければ、これを再度買inaおしていると思うほどの一品だった。

ランドセルのような形で、拡張スロットに物を挿せるらしかったが、特に欲しかったモジュールも無く使わずじまい。

残念ながら大学構内で、胸ポケットから飛び出し3階から転落するという痛ましい事件が発生し、液晶が完全に壊れてしまった。

ただし、パソコンと繋いでHotSyncは出来たので、バックアップは作成できた。

【SONY CLIE PEG-S300】

SONYが出したPalm。これも白黒4階調である。

クルクルピッチが懐かしいジョグがついていた。

カラー液晶モデルも発売されていたが、屋外で驚くほど見にくかったので、白黒を購入。

実用的だったので、ひたすら使い倒した。

この頃のSONY製品は品質がよかったように思う。

案外長持ちしたが、何度か落としているうちに、画面が写らなくなってしまった。

これもHotSyncでデータは大丈夫だったところがPalmらしい。

【SONY CLIE NR-70】

SONYが「型破りなPalm」を超えて、おかしくなり始めたPalm。

折り畳みで、いつものPalmの4つのハードキー以外にも、QWERTYのキーボードがついている。

画面の解像度も今までの2倍となり、ンとソ以外見やすくなる。ちなみにPalmWare作成の労力も純粋に2倍だ。

ただ、非常にキーボードの出来が悪かった。ペラペラのシートのようなキーボードで、一つずつ押さえて入力するのは正直Graffitiで書いたほうが早かった。それに最後のほうは、スペースバーあたりが操作不能になってしまった。

あとバッテリーが非常に早くなくなる。これが常用できない最大の理由だった。

お蔵入りにしているうちに充電器を紛失。特殊なコネクタっぽいので、たぶん見つけるまで使えない

。

WindowsCEとLinuxZaurus

WindowsCEとLinuxZaurus

この後、PalmがSONYのせいで迷走しだしたので、やっとWindowsCEをはじめ。
この頃のWindowsCEは比較的マシなものだった。

【Jornada 720】

HP製のキーボード型マシン。

小さいわりにキーボードが打ちやすい良マシンだったが、PCMCIAカードスロットとCFカードスロットが独自のメカニカルな形をしていて、PCMCIAカードを差し込むと裏面が出っ張る、CFカードを差し込むところはパンタグラフのように跳ね上がって入れるんだけど華奢、というなかなかハード的には微妙なマシンだった。

それなりに使った後、Teliosが来たので、当時の彼女、現在の妻にあげた。
その後はたぶん妻の実家で眠っている。

【SHARP Telios HC-AJ2】

WindowsCEなのに、8.4型の800x600大型液晶を積んだ、薄いノートパソコンのようなモデル。

キーボードが大きいので、さくっと物を書くのに便利。

DOSモバが使えない間、結構色々な文章でお世話になった端末。

ただ、WindowsCEの宿命か、なんでも最大化されて表示されるので、大きい画面の実用性は薄い。
大きい画面のせいか、満員電車で、カバンの中で液晶画面が割れてしまった。

【SHARP SL-C700】

一番最後に使った、純粋なPDA。

かなり使いづらかった覚えしかない。linuxだからどう、とかそういう次元でもなかった。

キーボードがプチプチと押すタイプだったので、スムーズな入力も出来ず電池もすぐ切れて、歯がゆい思いをした。

SHARP一辺倒だった私が微妙にSHARPを微妙に思い始めたきっかけ。



PDAからスマートフォンに

PDAからスマートフォンに

世間の流れが変わってくる。

Palmは完全撤退し、また海外端末にJ-OS導入、という作業が必要になってきた。

WindowsCEのキーボードタイプはほぼ絶滅。

おかしくなった後のPalmの劣化コピーのような、よくわからないWindowsPocketが伸びてくる。

しばらくはDOSモバを必死で探して購入し使用していた。

そんな時、Willcomから変な電話が発売されていた。

W-ZER03。当時、Willcomの電話を使用していた自分は、別に機種変更してもいいなあ、とか思っていた。

しかし、初代は無視した。評判はよさそうだったが「電話は電話できる形じゃないと、電話じゃないから」なんて言っていたと思う。

そんなことを言っていると、ついに電話の形をしたW-ZER03が発売された。

【Willcom W-ZER03[es]】

電話の形をしているW-ZER03。その代わり無線LANは搭載していない。

当時それほど無線LANが流行っていた訳ではないし、自分もメリットを感じていなかったもので、日本橋の家電量販店にて気にせず購入。

待ちきれず近くのカフェに入って電源をつけてみた感想。

「これは、ただの使いにくい電話かもしれない」



電話をかける時にいちいち、かけますか？ なんて聞いてくる。

かけたいからタップしたのだ。

メールが重たい。純粋にメールが重たかった。

キーボードはあんまり打ちやすすくない。

そんな思いも、色々なフリーソフトを入れていくうちに、だんだん解消していった。

とは言うものの、それほど手を入れた訳ではないが、自分好みに仕上がっていった。

同時に、この頃には社会人として仕事をしていたので、外でのダイヤルアップにも使っていた。

モデムとして使えたのは大きいと思う。

【Willcom Advanced W-ZER03[es]】



その後、斬新な、ちょっとだけ見せる広告サイトで話題になった、アドエス。

売れてしばらくしてから、発作的に購入した。

とは言うものの、

「これは小さくなった使いにくい電話かもしれない」

という第一印象は消えなかった。

何故か留守電になったら、マイクがONになり、相手にこちらの音、声を伝えまくる留守電機能。

相変わらずメーラは遅い。

キーボードは打ちづらい。

ただ、アドエスにはUSBホスト機能があった。

別売りのケーブルを使用すると、USB機器が使用できるのである。

スマートではないが、小さいキーボードを購入して、文章を入力したりした。

しかし、そのままテキストファイルをメールに添付して送信したりすると凄いよ、みたいな評判だったが、あまりそういう使い方をしなかったのを覚えている。

メールで送れるから何なのだろう？ という感じで。

Office文書を作成できるといっても、やっぱりサブセットで、仕事で使うには非力すぎた。

外出先に自分のテキストを持っていくなら、Palmの方が洗練されているとすら思っていた。

【e-mobile EM-ONE】

鳴り物入りで携帯キャリアになったe-mobile。

しばらくは無視していたのだが、だいぶ回線等がこなれてきた冬に、投売りのEM-ONE購入。

これは電話機能の無い、PDAに近いものだったが、

- ・ワンセグが見られる
- ・画面が広い
- ・キーボードも広い
- ・モデムとして使っても今までとは雲泥の速度。

というので購入。

ただ、想像以上にワンセグは期待はずれだった。

当時まだ、北摂に住んでいた私の部屋にはワンセグが一切入らなかった。大阪市内に引越し、久しぶりに起動しても、やっぱりほとんど入らなかった。



画面が広い、キーボードも広い、というのは結構なメリットだったが、下からキーボードが出てくるので、落ち着いて使うには角度が悪い。

クレードルにセットして、USBキーボードを使うといい感じだった。

インターネットは確かに早かった。

しかし、EM-ONE単体でネットは結構しづらいし、重い。

どうやら端末が非力すぎるようだった。

せっかくグラフィックカードを積んでいるというのなら、活用すればいいのに。

そう思ったのは私だけではないと思う。

しかし、この端末は常用した。

最終的に、トラックポイントのような部分があれば、タッチスクリーンは要らないかもしれない。と思った通信機能つきPDAだった。

これよりしばらく、電話はアドエスよりコロコロ変えたが、PDAはEM-ONEを使用する、という状態が続いた。

そんなときに、ソフトバンクから出ている電話が気になった。

【Softbank X02HT】

フロントキー搭載、Windows Mobile 6 Standard Editionなスマートフォン。

BlackBerryのようなキーボードがかっこいい。

これなら1台にまとめられるかもしれない、と思い購入したSoftbank X02HT。

アプリケーションをインストールするためにアンロックが必要だったり、意外と面倒な機種だった。

だが、なれると使いやすく、iPhoneが発売されるまで使い続けることとなる。

タッチが完全に排除されていて、なかなか今までのWindows Mobileと同じように使うことは難しかったが、フロントのキーボードは、同じ小さなキーボードでもNR-70のキーボードとは雲泥の差で使いやすかった。

小さな不満だが、SMS/MMSがたまりすぎるとかなり重くなって使用しづらくなるという問題があった。

【iPhone】

時代は変わっていった。

最初の、iPhone3G発売日。店で触って、欲しくてたまらなかった。

しかし、あまり機種変更しまくるのもダメだろう、という事でiPodTouchを購入。

X02HTを色々と活用し、iPodTouchで遊んでいた。

しかし、それも長く続かなかった。

【iPhone 3G】

ついにあまりに欲しくなって購入。

買って速攻、ハマる。

だが、最初は苦難の連続だった。

日本語入力が非常に重い。

日本語以外で使いたくなかったほど。

しかし、それもOSのバージョンアップでだんだん解決されていった。

PDAやモバイル機器のバージョンアップといえば、基本は新製品を買うしかない。もしくは、高いお金を払って、メーカーに送ってロジックボードを交換してもらう、という形しか知らなかった私はかなり驚いた。

その後色々なアプリが出て、便利に使用していく。

自由ではないプラットフォームで、カスタマイズ性はほとんど無い。

当初はJailBreak等を行って、メール着信時の鳴動時間を延ばしたりしていたが、最終的には別の結論に至った。

「これは、この端末をカスタマイズするんじゃなくて、サービス側がこの端末に合わせたサービスをする端末かもしれない」

昔から、内輪向けwebサーバだった自宅サーバを改良し、自宅クラウドっぽく使い始める。

しかし、iPhoneのバージョンアップも万能ではなかった。

iPhoneOSが、iOSと名前を変え、4.0に成ったとき。

とうとう、iPhone 3Gは色々と最新機能を打ち切られ始めた。

しばらくはiPhone 3Gでがんばろう、と思っていた自分だったが、妻がiPadを購入する代わりに、iPhone4を購入させてもらう、ということになる。

【iPhone 4】

iPhone 3GSを飛び越えてのiPhone 4。

まず画面が驚くほど綺麗だったり、なんでもさくさく動いたり。

facetimeとやらでテレビ電話なんか出来てしまう。

Bluetoothキーボードが接続でき、文章を書くことも可能。

現在、DOSモバ以外のPDAは休憩中だ。

この辺は現行機種なので割愛することにする。

終わりに ～自分自身の考察

終わりに ～自分自身の考察

今iPhoneが好きで、Visorを探し回って買ってないのは、その設計思想のおかげだと思う。
ビューアに徹する。入力、メモやちょっとした支出のメモなど、外出先でする範囲。
無駄に、オフィス文書が「作成」出来る等と謳わない。

Palmも同じだった。

ビューアでしかない。

Documents to Goなんかもあったが、やっぱりビューアの意味合いのほうが強い。

出来ないことだらけじゃないか、と揶揄されるが、出来ないことは出来ない、なら出来る範囲での最大の効率化って何だろう、って考えてあるのが使いやすさの原点だと私は思う。

Palmはシングルタスクだ。しかし、さもマルチタスクかのように、本体には4つアプリケーションの起動ボタンがあり、押すとさっとそれが起動する。

だが、実際には起動中のアプリケーションは別アプリケーション起動時にいちいち終了する。

アプリケーション側は、終了時に、前回の状態を記録し、次の起動時に再現しなくてはならない。

それでよかった。ユーザはPDAで、まったく同時に二つの作業は出来ない。

狭い画面にウィンドウを表示する必要もなく、使いづらいタスクバーも不要で、ホーム画面の起動したいアイコンをタップすればそれでよかった。

iPhoneも同じだと思う。

ただ、iOSは、4.0になり、Fast App Switchingと特定APIのバックグラウンド動作が可能になった。

出来る幅は広がったと思うが、結局最後に出てくるのは、Switchという単語。

マルチタスクを完全に動作させる気は無いのだと、やはり思ってしまうが、それでいいのだと思う。

Macで言うDashboardとか、DAぐらいはあってもいいよね、と思うのだが、それは割り切っているよ
うで。

Androidにも興味がある。

たとえば、こんな機能があるらしい。

あるアプリケーションが、こういうデータに興味があるアプリ挙手、と呼びかけると、アプリ一覧が
表示される。

ユーザは使いたいアプリを選択し、そのアプリで起動することが出来る。

iPhoneやPalmとは真逆の発想だと思う。

切り替える事に意味があるわけでも、アプリケーションが同時に起動することに意味があるわけでも
ない。

主体がデータだ、ということに意味があると、私は思っている。

AndroidもiPhoneも発展して欲しいし、Palmだって日本で復活して欲しい。

iPhone, iPad一辺倒な今のスマートフォン界、というよりもPDA類全体に、再び色々な活気が沸き起こって欲しいと思う。

最後までお読みいただき、まことにありがとうございました。

不備・記憶違い等ありましたら、是非ご指摘お願いいたします。